

父の友人や仲間が、一人息子の結婚式くらいは行ってやるのが親としての役割だと論じてくれたようです。

世の中の大半の産業は「動脈」。資源から商品を製造し物流に乗せ販売・消費していく。これがまさに動脈。でも我々の仕事は「静脈」。使わなくなったものを次の資源に繋いでいく。全身に血流を送る動脈と我々が再生する静脈と捉えています。この静脈産業は動脈産業にくらべ目立たないのですが、世の中には絶対に必要不可欠な役割です。だから社会インフラを支えているという誇りがあります。我々が下支えしないと新しい施設も建たないし、子供たちが遊ぶ公園や図書館もできない。地域のインフラ整備のスタートは建築ではなく、僕らの再生。我々の仕事が新しい街づくりの一步だと思っているので、そう捉えると我々の仕事の社会的なお役立ちとは、とんでもなく尊いものだと思います。だからそういう仕事なんだと社員にも誇りを持つてほしいし、この10年間くらいでSDGsやESGなど、環境に関するワードが聞こえるようになりました。令和に入って我々の仕事がかこれまでの末端から先端になる時代になってきたという感覚です。今後はよりこの環境問題がクローズアップされます。だからその更なる大きな波に飲み込まれるんじゃないかと、波の先頭に立たないといけない。そのためにICTやDXを業界内で先んじて導入しています。いまだに我々の業界は図面やファックスなど紙だらけの状態です。でも我々はいち早くペーパーレス化をすすめ拠点間をテレビ会議システムでつなぎ、密なコミュニケーションを図っています。結局、最後は人。その繋がりをオンラインやリアルで、いつでもどこでも繋がついている状況を作り、「一体感ある人が集まるチームを創り出しています。」

会社や地域が光れば人が集まってくる

会社とはイルミネーション。キラキラしているイルミネーションには人が集まってくるじゃないですか。会社もそれと同じ。社員がキラキラ輝いていたら自然と人が集まってくる。

海でライトを照らしても魚しか集まってくるませんが、会社や地域が光れば人が集まってくる。人というのは社員だけでなくお客様もパートナー企業もそう。人が集まってくる会社にお金は集まってくる。だから私の役割は社員に光を当て輝かせること、自分たちの仕事はこんなに大切なんだというのを伝え続け、誇りを持たせること。正直いえばこれまでの人生に劣等感を持っている社員も中にはいます、でもその気持ちをなくし自己肯定感を上げてあげたい。そして社員さんたちが変化し成長する姿を見るのが何よりの喜びです。祖父が30年、父が30年社長をやりました。私が社長になって24年、任期もあと6、7年かなとは思っています。創業90周年という節目でちょうど30年の任期が終わる、社長代行からいうと経営者歴が結構長い。社長にも賞味期限があると思いますし、宗守家30年ルールから言えばあと6年で自分は次のステージに行くかなくてはいけないし、そうと決めています。高校生の息子はいますがさすがにすぐは難しいでしょうから、ホルディングスが次の目標で目標は13社50億企業ですが、最低10人の社長を作り後進に委ねるつもりです。私は一人っ子なので基本寂しがり屋です。でも会社にいると沢山の仲間がいるし増えていくのが楽しい。社員のことには大好きですし、かなり好かれている自信もあります(笑) ワークライフバランスとか言

われますが、ワークとライフを分けること自体どうなんかなと、「不離体」というコトバがあるのですが、不は打消しの意味、離は別々になるという意味。つまり不離とは離れることができない。一体は一つにまとまっていること。つまり「不離体」とは、一つにまとまっていて離れられないという意味なのですが、仕事とプライベートがそれにあたります。仕事は仕事、プライベートはプライベートではなく、それは一つまとまっていて生き様そのものなのだという考え方に私はすごく共鳴しています。スタバがサードプレイスと言っていますが、うちもそうなければいいな」と社内のカフェスペースを作りました。とても解体業の会社には思えませんが、宗重で働くのがオシャレだね！と言われるようにしたいし、そうなればワークもライフも一緒、すべて生き方であり生き様そのものになります。私にとって仕事は生きる価値そのもの。仕事でしか社会人としての存在価値を表現できないと考えていますし、こんなやりがいのある職業に出会えたことに感謝しかありません。

復興への想い

2024年、私たちの会社はこれまでとは全く違うスタートとなりました。当社の期首は1月ですので、本来であれば年頭経営指針発表会を行う予定でしたが、元旦に発生した令和6年能登半島地震により、地域社会の再建と復興に向けてのリストートを切ることになりました。地震発生翌日から幹部社員が集まり、全社員の安否確認や各事業拠点、現場の安全確認を実施しました。そこでもちろん経営指針発表会開催の是非も話し合い、4日には従来の発表会の形を変え、「災害復興決起集会」を実施することを決定。同

時に当社の社員や協力会社の皆様へ物資提供の依頼も行いました。5日の決起集会の内容としては、震災翌日からの初動対応や会社としての共通認識と方針の発表、終了後は搬入された支援物資を被災地へ運搬する準備や仕分けに取り掛かりました。午後から珠洲市への物資運搬へ向かい、そこから約2週間にわたり支援物資の受入れと被災地への運搬を実施、皆様からのご協力もあり合計2トント車で15台近くの支援物資を被災地へ届けることができました。その合間にも国や行政の対策・方針や被災地の状況は目まぐるしく変化しています。現在は災害ごみの仮置き場に運搬車両と人員を送り、日々現地に持ち込まれるごみ処理のお手伝いもしています。業界団体の副会長もしていますので国、県、各自治体と共に被災地復興へ向け業界全体の足並みを揃える話し合いを何度も重ねてきました。石川県との間に災害防止協定を締結しているため、1月下旬には今後の被災建物の公費解体への大枠も決定しました。ここからが私たちの出番になります。例えば犯罪があると警察が、けがをしたら救急車が、火事が起ければ消防車が出動します。ここで「我々の出番はいつなんだ？」と考えた時、今以上に自分たちが必要とされる瞬間は今後100年の間にあるのかなと思ってしまう。社員の皆さんにいつも伝えていることがあり、我々の仕事の歴史は古いところをたどると街の火消しからスタートしています。未曾有の危機という今だからこそ、使命感を持って組織力を発揮する時だと感じています。今後数年は会社としても、そして業界としても解体工事業の力が試される時です。社員、ステークホルダー一丸となつてこの危機を乗り越え、自分達が住んでいる街の復興のために尽力していきます。

私にとって仕事は生きる価値そのもの



6. 家族のように大切にしている宗重ファミリーの皆さま 7. 今回の取材を通して宗守さんをよく理解し思いに共感できる素晴らしい時間となりました!